

オール読みきり

b-BOY  
KIEHI  
KIEHI

新田祐克  
環レン  
西野花  
(画・佳門サエコ)

逃げられると思つた?  
そんなの無理に決まつてゐだらう

羽柴みづ  
日向せいりょう  
瀧ハジメ  
小池マルミ  
七瀬かい  
サトニシ  
紙井メモ

男男男  
特集



AGUS BOO



ゴーカン  
**GO 霸**特集

C O N T E N T S

瀧ハジメ	人魚と魔法使い	1
小池マルミ	むりやり愛して	29
新田祐克	キスアリキ。	69
環レン	雑食秀ちゃん	101
日向せいりょう	恋を追う者、愛を得る	133
紙井メモ	ミッドナイト・パパラッチ	161
西野花(画・佳門サエコ)	ソムサン~海外事業部の暴君~	185
羽柴みず	アラビアン・ポルノ	203
七瀬かい	Bad Eating	235
サトニシ	魅惑のケーキレシピ	243
次号予告		267
ライターズコメント		269
表紙	新田祐克	

表紙 橋本清香 (NARTI:S)  
レイアウト CoCo.Design 柴崎結佳  
NARTI:S リブレ出版デザイン室

本作品は紙版刊行物を電子書籍化したもの(デジタル版)であり、掲載されている情報は紙版出版時点のものです。  
なおデジタル版は一部紙版と異なる仕様がございます。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。  
本書の一部、あるいは全部を無断で複製複写(コピー、スキャン、デジタル化等)、転載、上演、放送することは法律で特に規定されている場合を除き、著作権者・出版社の権利の侵害となるため、禁止します。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内で利用する場合であっても一切認められておりません。

b-BODY

K I C H I K U

b-BOY  
キック



ねえ シン：

君は生まれた  
時からの  
親友だ：

君にだけは  
伝えておきたい

恋をしてしまった  
ようなんです…

まさか  
人間にか!?

こ…い…?

ふさげるな…  
あんな争いばかりする  
野蛮な生物なんて

あいつらは  
同族間で平氣で  
殺し合いをするんだぞ?!

レイ

僕は

第一人間になつたら  
もう二度とこの海に  
還ることはできない…

それをわかつてて  
言つてゐるのか…!!

わかつてねーよ…!!  
そもそも人間になる薬は  
劇薬だ…!!  
飲んだら身体にどんな  
異常ができるか…:

へたしたら  
死んでしまう  
可能性も…

わかつてますシン  
人間になつたからって  
幸せになれるとは  
限らない

なんで…

人間に  
なりたいです

それでも僕は

コクニ…

はい…



b-BODY

K I C H I K U

や…

やだッ！

このホテルの  
オーナーは  
俺だ

騒いだつて  
誰も助けには  
来ないぞ

諦めて  
大人しく抱かれろ





b-BODY

K I C H I K U

磯貝来てんのか  
ああ磯貝ってのは  
汚ねー顔して相当な  
面食いでな

女も食うが若エ男  
が大の好物っていう  
好き者だ  
透あたりを見たら  
大騒ぎだらうなあ

でしようねでも  
透坊つちやんに  
お目通り適うのは  
組でも幹部クラスで  
ないと

店にセッティングして  
正解だつたな  
スケベな目でジロジロ  
見られてちゃ  
透がきれちまうわ

しかし組長  
先程の電話では  
店の事は仰い  
ませんでしたが

えつ…!?  
透さん呼び出し  
てるんですかっ  
!?

あーそれじやあ  
事務所の方に  
行つしまつたかも  
知れねえなあ



透さん…!!

妙な事になつてなきや  
いいんだが





あ？

なんだあ…?



b-BOY  
キック

KICK

「雑食秀ちゃん」環 レン

オレ様系ゴーマンモデル

インテリアコーディネイター

Wren Tamaquis

環レン

雑食秀ちゃん

ZASSHOKU  
HIDE-CHAN

男女問わず。レベル問わず。  
やるだけ、遊ぶだけが生きがいの  
“雑食系”なんて、大っキライ  
なハズなのに…

環レンのピーボーイコミックス

「二人のマハラジャ」「支配者と獲物」「シークレットフライト」  
「シークレットフライト～ビジネスクラス～」「買われてきた花嫁」

大好評  
発売中



七紀君も  
そう思わない?

ええ

そうですね…

そして漁色なのも  
よく知られた話  
どこにいても必ず  
取り巻きを連れている

それが許されている  
特別な人種だ

彼は丈秀狼  
日本だけでなく  
海外でも活躍している  
有名モデルだ

あーっ 私もあの娘ぐら  
いキレイだつたら秀さん  
にキスして貰えるかもーっ

なあ  
おい



b-BODY

K I C H I K U



佑ちゃんを  
幸せに  
できないかな…？

俺じや…つ



…つ

俺は…  
確かに

公聖…  
こうせい…つ







おまえが  
俺を？

そうじやな…つ

え！?  
というかあの…つ  
昌上つて店長とは  
どういう関係！？

ホモでプラコンの  
ひとり者が  
あわれに見えた？

b-BOY  
キック



# 紙 井 メ モ



深夜のオフィスで起きた身体の駆け引き…♥



紙

井

メ

モ



「それじゃあ、会議がんばって」

「本当に車を出さなくて平氣か？」ヒロ

「大丈夫だよ。子供じゃないんだから」

廊下の隅で黒木浩はあたりをうかがいながら小声で電話の

向こうの男に答える。

「すまないな。急に会議だなんて」

「日本の会社ではよくある事だよ」

浩が話している相手は、恋人であるアドリーバシール・ラ

ジャフという中東の大富豪だ。浩の勤めているカイゼル・

コーポレーションに出向に来ている。本国では彼もまた、いく

つも会社を経営しているらしい。

「浮氣しないでくれよ。ヒロはとても可愛いから心配だ」

「そんなの、するわけないよ。俺に声をかける奴なんていない

つて」

浩は昔から自分に自信がなかった。そのせいもあるのか悪い

男に捕まつたりして、いろいろとひどい目に遭つたが、アドリ

ーに出会つてから少し変われたと思う。

彼は仕事で一度寝ただけの浩を、ソムサンの規約を破り、違

約金を払つてまでも独占したいと言つてくれた。内にこもつて

いた浩を放つておけない、可愛いと情熱的に口説かれ、結局ア

ドリーリに押し切られる形で彼の『専属』となつた浩だが、今で

もこの状況が信じられない自分がいる。

「ヒロ、駄目だよ、約束したろう？　もうそんなふうに自分を

悪く言わないくて」

「……うん、そうだね。ごめん」

それでもまだ、自分を卑下してしまう浩を、アドリーリが優し

くたしなめる。

「私が大好きなヒロを、そんなふうに言わないでくれ」

「……ありがとう」

思わず目の奥が熱くなり、浩は慌てて日尻拭つた。変装す

る時にかけている眼鏡が少しずれたので、かけ直す。

「ああ、もうすぐ時間だ。じゃあ、名残惜しいがまた」

「うん――。待ってる」

電話越しに聞こえる声さえ愛しくて、浩は離れがたいと思つ

てしまう。これまでには考えられないくらい彼には大事にして

もらつてているのに、自分はずいぶん欲深くなつた。

あまり我が家を言つて、呆れられないようにならないと。

浩は通話を切つてからそつとため息をつく。

今日は仕事が終わつてからアドリーリと食事をする約束だつた。

浩は気持ちを切り替えた。ここはまだカイゼルの社内で、自

分は今は擬態しているのだ。ここにいるのは本来の黒木浩ではなく、麻桐孝。完全にオフになるまで、気を抜いてはいけない。

現場を退いたとはいえ、自分はソムサンの一員なのだから。

浩はソムサンの一員だったが、先日業務でついたアドリーリに

見初められ、彼のものになつた。

本来なら許されない事ではあるが、なんと彼はカイゼルの社

長に直談判までした。あの時の、社長令息でありソムサン統括

である逢坂環の困つたような複雑な表情が忘れられない。

浩は大きく息を吐き出すと、アドリーリの事を努めて頭の中か

ら追い出し、廊下を歩き出した。

「…………」  
「おつ、帰ってきたか」

仁科晃司は浩の前の恋人だった。

——でも。

浩はそつと眉をひそめる。

今となつてはあれが恋人だったと言えるのかどうか疑わしい。

仁科は定職にこそちゃんとついていたが、たびたび浩に暴力を振るい、浮気癖もあり、最後には浩を手酷く振って捨てた。

浩は昔からこういう男に惹かれやすい性質がある。

だがアドリーは、それまでのぶんをすべて取り返してもなお足りないほどの完璧な男だった。完璧すぎて自分にはもつたらないほどの。

「久しぶりだな、浩」

「……どうしたの」

仁科とは最後にたつた一本の電話だけで一方的に別れを告げられて以来、まったく連絡をとっていない。

「お前、鍵替えたのか？ 入れなくてずっと待つてたんだぜ」「何か用？ 私物は捨てていって言つてたから、全部処分したよ」

硬い調子の浩の声に何かを感じとったのか、仁科は少し面食らつたような顔をして浩を見た。それから急に調子を変えたよう柔らかい声で、へりくだるように話す。

「ああ――……、悪い、ほら、急に雨降ってきたからよ。ちょうどここいら通りかかつたし、お前の顔みたくなつて……」

「元気でやつてる。心配ないよ」

浩は素つ気なく答える。こんなに冷たい声が出るなんて自分が立つてゐる事に気づいた。その姿を見て、思わず息を呑む。

会社を出ると雨音が浩を包んだ。

アドリーは傘を持ってきているだろうか——とそんな事を考えたが、すぐに、彼ならば車を呼ぶだらうと思い苦笑した。

いつものように電車に乗る。自宅の最寄り駅に着いたところで、浩は擬態のための眼鏡を外し、髪型を戻した。

(今日は久しぶりに自炊でもするかな)

商店街のスーパーで買い物をしてから、自宅のアパートに帰り着く。

ソムサンの社員は、他の社員よりもかなり高い給与をもらつてはいるが、浩の生活は慎ましかつた。子供の頃から質素な生活が身についてしまつたのかもしれない。こんな自分がセレブなアドリーの恋人だなんて、なんだかおかしい。

鉄の階段を上がって二階に着くと、浩は自分の部屋の前に誰かが立つてゐる事に気づいた。その姿を見て、思わず息を呑む。







暇つて…この場合  
休暇じゃなくて  
お払い箱つて  
意味だつたりして…?



昼間起きてるのも  
久しぶりだな  
いい天気

b-BODY

K I C H I K U

b-BOY  
キック

K I C K I K U

俺達の悪食には、意味がある。

祟られる  
らしいぞ

興味本位で  
覗きに来たような  
奴は

もしくは  
デートコースな

地元じゃ有名な  
肝試しスポット  
なんだよ

そういう  
落書きとか  
ゴミとか…

元は綺麗な建物  
だつたろうに  
確かに  
不気味だな

この廃墟

ネットでも  
噂になってるんだ

Kai Nanase

# 七瀬かい Bad Eating

バッドイーティング

SBECC第2次面接「湯あたりしそうな恋だから」絶賛発売中!

誰が  
びびるか

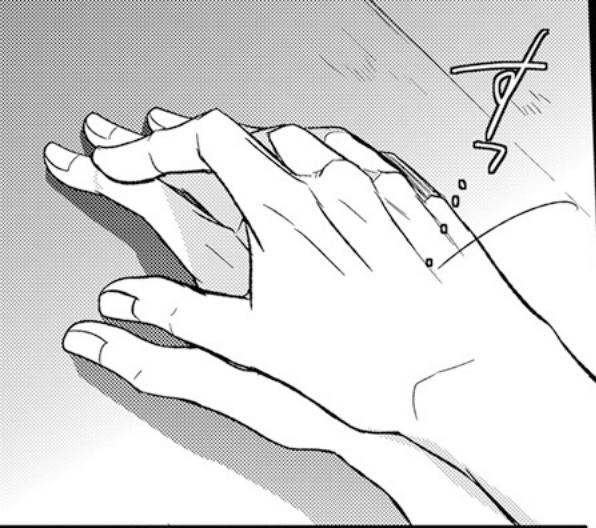
何だ  
びびってんのか  
レン



b-BODY

K I C H I K U

b-BOY  
キック





え……?



キス !?  
祐士がオレだ...  
な

